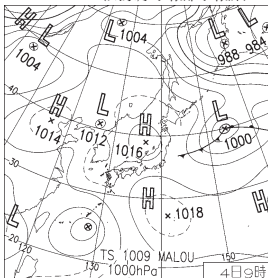


日々の天気図

— No. 104

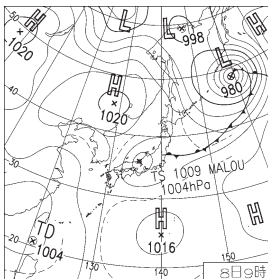
2010年9月

- 広い範囲で猛暑日となり、北～西日本にかけて9月上旬としては、1961年以降最も高温となった。
- 8日、台風第9号が福井県敦賀市付近に上陸。
- 25日、北海道稚内市沼川で最低気温が-1.4℃と、今季初めての氷点下。富士山で初冠雪。
(気象庁予報部予報課)



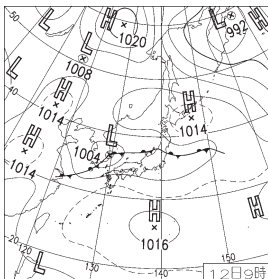
4日(土)西～東日本で猛暑

台風第9号が沖縄の西海上を北上し沖縄では雨。西～東日本の213か所で猛暑日。島根県津和野町森村で37.4℃と年間の最高気温の極値更新など144か所で9月の最高気温更新。



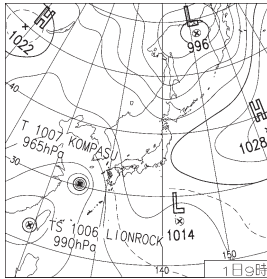
8日(水)台風第9号福井県上陸

台風第9号は山陰沖を進み、11時過ぎに福井県敦賀市付近に上陸。神奈川県山北町丹沢湖で観測史上最高の495.5mm/日。全国的に日照が少なく、残暑弱まる。



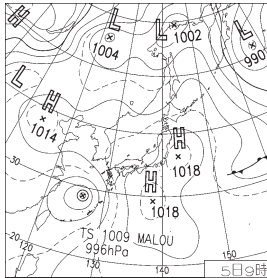
12日(日)北陸～東北で大雨

西日本～関東は晴れて近畿・東海を中心に猛暑日81か所。九州や北陸～東北は台風第10号から変わった低気圧や前線の影響で大雨や雷。新潟県佐渡市相川では61.5mm/1h。



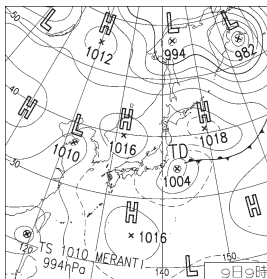
1日(水)9月に入るも続く猛暑

厳しい残暑が続く。全国の157か所で猛暑日、789か所で真夏日を観測。242か所で9月の最高気温極値を更新。北日本は所々で激しい雨。青森県五所川原市市浦で72.5mm/1h。



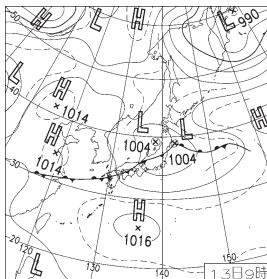
5日(日)台風東シナ海を北上

台風第9号は東シナ海をゆっくり北上。台風の影響で南西諸島と九州の西部では雨。北海道は前線の影響で曇りや雨。その他は晴れて残暑厳しい。京都府福知山市荒河で38.3℃。



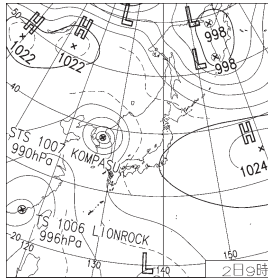
9日(木)台風第10号発生

台風第10号が南シナ海で発生。周辺の湿った空気の流入で先島諸島は雨。台風第9号から変わった熱帯低気圧の影響で東海～東北南部の太平洋側は一時曇りや雨。



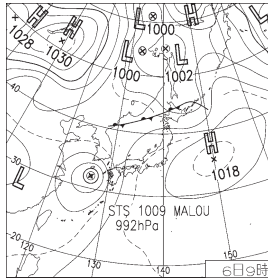
13日(月)寒冷前線南下

低気圧に伴う寒冷前線が本州を南下。前線が通過した西～東日本でにわか雨。東北は低気圧の影響で北部を中心に雨。北海道は概ね晴れ。関東、東海で猛暑日を観測した所も。



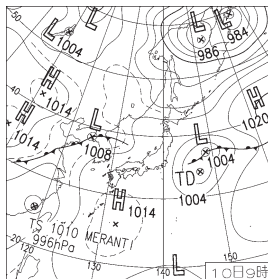
2日(木)残暑続く

太平洋高気圧に覆われ、715か所で真夏日を観測するなど全国的に残暑続く。午後には九州や東北の山沿いで雨。台風第6号は中国大陸で熱帯低気圧に。



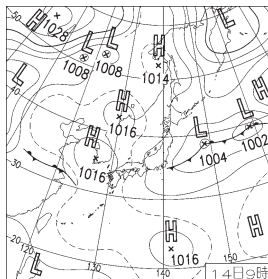
6日(月)南北で非常に激しい雨

台風第9号は東シナ海を北東進。九州は風雨強まる。前線や湿った空気の入った北日本も局地的に激しい雨。長崎県福江空港で74mm/1h、宮城県丸森町筆浦で73mm/1h。



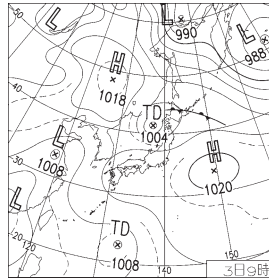
10日(金)西日本を中心に残暑

日本付近は南海上の高気圧に覆われ全国的に概ね晴れ。西日本を中心に気温が上がり猛暑日の所も。京都府京田辺で35.5℃。台風第10号は熱帯低気圧へ。



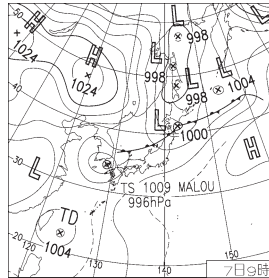
14日(火)残暑ひと段落

前線が南海上に南下して、日中は広い範囲で晴れ間が広がったが、猛暑日の観測は無く、残暑もひと段落。前線の影響で明け方まで北陸～東北の一部で激しい雨。



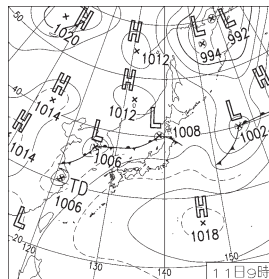
3日(金)東北～北海道は雨

台風第7号は日本海で熱帯低気圧になって渡島半島を通過。東北～北海道の広い範囲で雨。フェーンの影響で宮城県塩釜で観測史上最高の35.7℃。



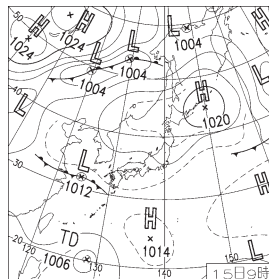
7日(火)台風第9号は日本海へ

台風第9号は対馬海峡から日本海へ進み、九州・四国や本州日本海側で雨。前線の影響を受けた北日本も雨。島根県隠岐空港で54mm/1hの雨。関東などでは猛暑続く。



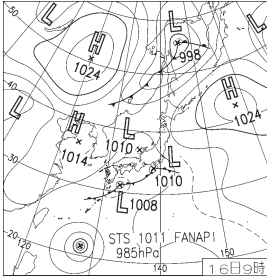
11日(土)東北日本海側等で大雨

前線や低気圧の影響で、東北で激しい雨。夜には北陸でも大雨。秋田県北秋田市阿仁合で55.5mm/1h。九州～関東は晴れて残暑が厳しく、50地点で猛暑日を記録。

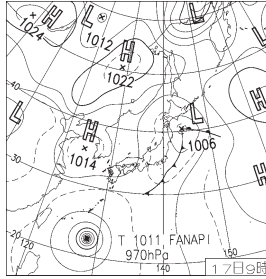


15日(水)台風第11号発生

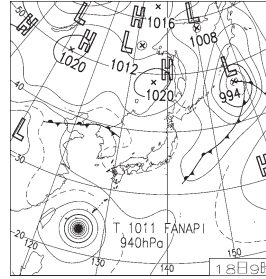
北日本は概ね晴れ。最高気温は8月上旬～9月上旬並。西～東日本では雲が多く、一部を除いて最高気温はほぼ平年並。夜、紀伊半島で短時間大雨。和歌山県新宮で67.5mm/1h。



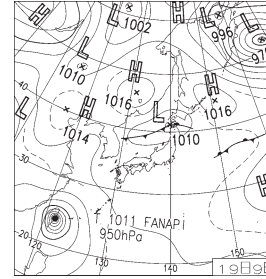
16日(木) 東海～関東で激しい雨
本州南岸の前線・低気圧の影響で、九州南部や近畿～東北で雨。冷たい東風により日中も肌寒く、関東～東北南部は最高気温が10月中旬並の所も、三重県尾鷲で54.5mm/1h。



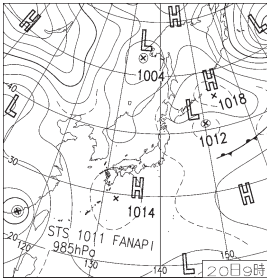
17日(金) 西日本は秋晴れ
高気圧に覆われて西日本は晴れ。低気圧や気圧の谷の影響を受けた北陸・東北・北海道は雨や曇り。台風第11号は発達しながら北西進し、先島諸島に接近。



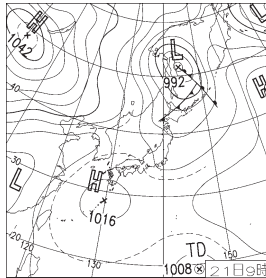
18日(土) 台風第11号 先島諸島へ
非常に強い台風第11号は沖縄の南を西進し、先島諸島が暴風域に。沖縄県波照間空港で最大瞬間風速53.5m/s。本州付近は高気圧に覆われ、広い範囲でさわやかな陽気。



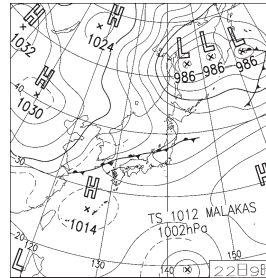
19日(日) 先島諸島大荒れの天気
台風第11号の影響で沖縄県波照間空港最大瞬間風速63.8m/s、竹富町大原60.8m/s等猛烈な風。西～東日本は高気圧に覆われ晴れ。北日本は低気圧や前線の影響で雨や曇り。



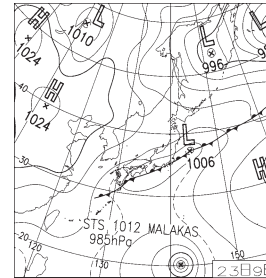
20日(月) まだ暑い彼岸の入り
日中、晴れたのは南西諸島、北海道と西日本。その他は曇りで、一部で晴れ間も。西日本を中心に真夏日。高知県四万十市中村で34.6℃。北海道では夜、稚内で53.5mm/1hの雨。



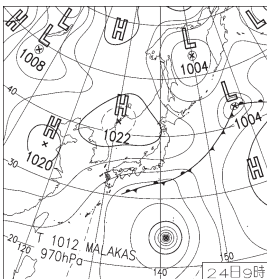
21日(火) 8日ぶりの猛暑日
北陸～北日本は気圧の谷の影響で曇りや雨。西日本～関東は概ね晴れて、九州・四国など11か所で猛暑日。台風第11号は熱帯低気圧に。愛媛県愛南町御荘で最高気温35.8℃。



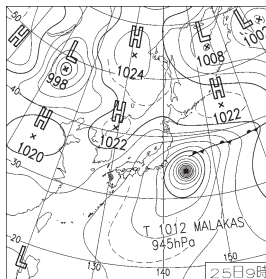
22日(水) 前線南下で広域に雨
前線の影響で日本海側は北陸を中心に朝から雨や雷。猛暑日を20か所で観測した太平洋側も前線の南下に伴い午後から雨や雷が広がる。北海道大雪山系岳岳で初冠雪。



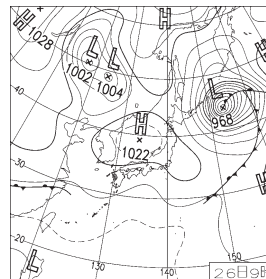
23日(木) 肌寒い秋分の日
前線が南下。最高気温が福島県浪江で昨日比-14.9℃など、全国的に平年より低め。大分県日田市椿ヶ鼻で75.5mm/1hなど各地で激しい雨。千葉県いすみ市の祭りに会場に落雷。



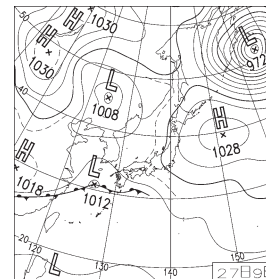
24日(金) 台風 小笠原に接近
本州南岸に前線が停滞、東日本で雨。台風第12号は、本州の南海上を北上し、小笠原諸島に接近し暴風域に。父島で最大瞬間風速45m/s、母島で日降水量106mmを記録。



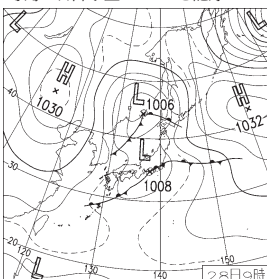
25日(土) 台風 関東沖を北上
台風第12号は関東沖を北上し、関東～東北の太平洋側は強風。千葉県銚子で37.4m/sの最大瞬間風速。北海道稚内市沼川で最低気温-1.4℃と今季初めて氷点下。富士山で初冠雪。



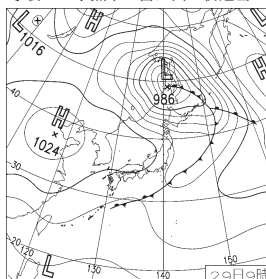
26日(日) 西～東日本 天気下り坂
日本付近は高気圧に覆われ昼間まで概ね晴れたが、西～東日本は湿った空気の流入により午後から雲が広がり、次第に雨。台風第12号は温帯低気圧に。雌阿寒岳で初冠雪。



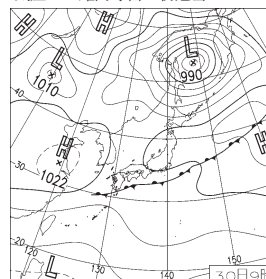
27日(月) 全国的に雨
前線を伴った低気圧の東進や気圧の谷の影響で沖縄を除きほぼ全国的に雨。四国や関東では大雨となり、徳島県阿南市蒲生田で93.5mm/1hの猛烈な雨。



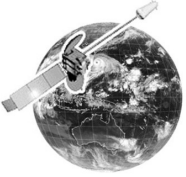
28日(火) 東日本太平洋側で大雨
南岸の低気圧により東日本太平洋側で大雨。強い雨域は夕方には関東を通過し、天気は西から回復。西日本は晴れて真夏日も。別の低気圧が沿海州から北海道に接近。



29日(水) 北海道は大荒れ
発達した低気圧により北海道は太平洋側を中心に暴風や大しけ。西～東日本は高気圧が北に偏り、晴れても雲が広がり雨の所も。沖縄は湿った気流の影響でわか雨。

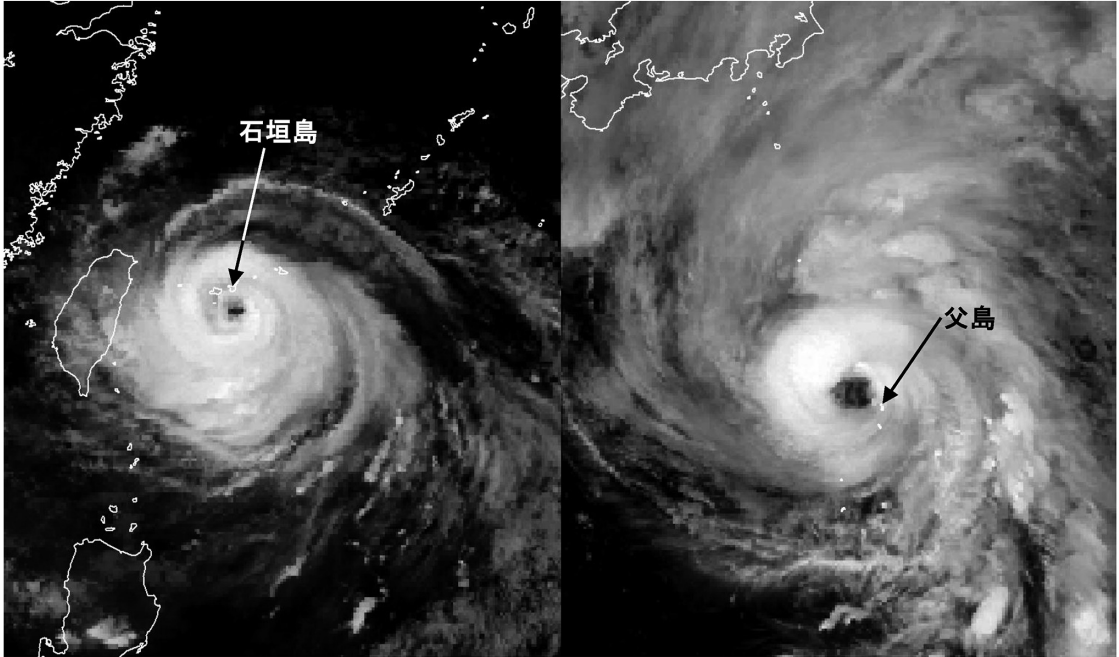


30日(木) 太平洋側を中心に雨
前線の影響で西～東日本は太平洋側を中心に雨で日中は気温が上がらず、10月中旬～11月上旬並。最高気温は奈良で平年比6.7℃低い17.9℃。北日本は概ね晴れ。その他は曇り。



今月のひまわり画像—2010年9月

眼の形状からみた台風第11号と第12号の比較



第1図 2010年9月18日21時の台風第11号（左）と24日18時の第12号（右）の赤外画像。
（時刻は日本時間，同縮尺）

2010年9月，台風第11号が18日から19日にかけて八重山諸島に，第12号が24日に小笠原諸島にそれぞれ接近した。第1図左は18日21時，同図右は24日18時（いずれも日本時間）の赤外画像である。2つの台風を見比べると，それぞれ異なった大きさの眼が形成されていることがわかる。観測点のほとんどない洋上における台風強度は，ドブラック法と呼ばれる衛星画像を用いた手法により解析されている。この手法では，台風の眼の直径が台風強度を算出するための指標の1つとなっており，眼の大きさが基準以上である場合や眼の形状がいびつな場合は，強度を強くする補正は行われず，円形度の良い小さな眼を有する台風よりも強度が弱く解析される。

第1図の時刻における台風第11号と第12号の中心気圧の解析値はそれぞれ940hPa，960hPa，最大風速の解析値はそれぞれ85kt，75kt（1kt=0.51m/s）で

あった。一方，台風接近時の石垣島と父島における最大風速，最低気圧を比較すると，共に大差はないものの，眼の直径の小さな台風第11号接近時の石垣島の方が第12号接近時の父島よりも風がやや強く，気圧もやや低くなっていた（最大風速，最低気圧の極値は石垣島：33.6m/s，973.5hPa，父島：29.3m/s，975.5hPa）。両地点における観測値は，各台風周辺の暴風・強風範囲や移動速度の違いなどのため単純には比較できないが，地上観測でも2つの台風の強度差が僅かに表れていた。

これら2つの台風は，発生時期が約1週間ずれたもののほぼ同じ海域で発生した。しかしながら，その後それぞれ北西，北東に進路を取った結果，異なる発達過程をたどり，それぞれ違った個性を持つ台風に成長していた。

（気象庁予報部予報課航空予報室 大野滋規）